

小林達治

こばやし・たつじ

福山誠之館校長(第26代)

経歴

生:昭和3年(1928年)3月21日生まれ

昭和20年(1945年)	17歳	広島県立福山誠之館中学校(5年)卒業
昭和25年(1950年)3月	22歳	広島高等師範学校文科一部甲卒業
昭和25年(1950年)4月～29年(1954年)3月31日	22～26歳	広島県福山南高等学校教諭(工業定時制)
昭和29年(1954年)4月1日～35年(1960年)3月31日	26～32歳	広島県立福山工業高等学校教諭
昭和35年(1960年)4月～50年(1975年)3月	32～47歳	広島県福山葦陽高等学校教諭
昭和50年(1975年)4月～53年(1978年)3月	47～50歳	広島県福山葦陽高等学校定時制教頭
昭和53年(1978年)4月	50歳	広島県教育委員会事務局主幹指導主事
昭和54年(1979年)4月	51歳	広島県立至誠高等学校校長
昭和57年(1982年)4月1日～60年(1985年)3月31日	54～57歳	広島県立三次高等学校校長
昭和57年(1982年)4月	54歳	広島県高等学校野球連盟副会長
昭和58年(1983年)4月	55歳	広島県教育研究会国語部会長
昭和59年(1984年)4月	56歳	広島県公立高等学校長協会三次支部長
昭和60年(1985年)4月1日～63年(1988年)3月	57～60歳	広島県立福山誠之館高等学校校長(第26代)
昭和61年(1986年)4月	58歳	広島県高等学校同和教育推進協議会会長
昭和62年(1987年)4月	59歳	広島県高等学校長協会福山地区支部長
昭和63年(1988年)3月	60歳	定年退職
平成元年(1989年)4月	61歳	中国短期大学広島県連絡事務所長
平成2年(1990年)4月～8年(1996年)	62～68歳	弥勒の里国際文化学院日本語学校理事兼校長
平成3年(1991年)4月	63歳	財団法人松永育英奨学会理事
平成3年(1991年)4月	63歳	広島県日本語教育施設連絡会会長
平成10年(1998年)11月	70歳	勲四等瑞宝章
平成14年(2002年)～22年(2010年)3月31日	74～82歳	社会福祉法人宏喜会園長
平成22年(2010年)4月1日	82歳	社会福祉法人宏喜会顧問

プレハブ編集室と通信制専用棟の建築 小林達治

私が誠之館に着任した昭和60年(1985年)からの3か年は、国の段階で「教育荒廃」を背景に臨教審による「第Ⅲの教育改革」の第1次答申、広島県においては、公教育の健全化・学力問題・総合選抜制度の見直しなどを巡る新たな渦が巻き起こされた時代であった。

(中略)

プレハブ編集室と通信制専用棟の建設は、同窓会館建設運動及び通信制の独立校化への布石になったものである。

百三十年史の刊行委員会が発足したのは昭和58年の初頭であった。

これを受けて対県陳情を行い、三吉町時代の同窓会館部分が木之庄校舎では通信制専用教室拡充等のため極端に狭められている実状を訴え、編集室(編集会議と資料保管の施設)確保の要望を続けたが、要望に対しては棚上げ状態が続いた。

このような経過の中で年史編集推進のために同窓会は、プレハブ編集室の建築に踏み切った。

昭和60年の夏である。

一方、通信制への認識の不十分さに起因する通信制差別問題とそれを挺子に通信制教育条件整備への生徒ぐるみの教職員要求により厳しい交渉の渦中に立たされ続けた。

県でも通信制教育の安定的充実を図る方が模索され、昭和60年度末には誠之館・国泰寺両校長と担当課長の継続的プロジェクト会議(非公式)の設定をみた。

私は通信制専用棟建設による全日制施設の拡充と同窓会専用施設の確保策を模索したが、現場校長としての模索が県教委の通信制独立校化展望に立つ独立棟の構想と合致し、実現の方向性が出てきたのが昭和60年度初頭であった。

以後、県との水面下の折衝を重ねたが、同窓会の要望活動、同窓会議員開原氏による強力な行政への働きかけが大きな力になった。

同年10月、「福山誠之館高校通信制課程の専用棟についてCグラウンドに専用棟を建設する。」県教委文書がまとめられ、昭和63年度当初予算に専用棟建築費が計上された。

すべてが水面下の動きであり、建築設計に漕ぎつけるまでには、想像を絶する多くの壁があった。

公式に現場の建設委員会を立ち上げ、県教委施設課・知事部局営繕課の来校を求めて、専用棟建築設計が実質的にスタート出来たのは昭和63年の年明け早々であった。

設計作業に取りかかっていたの曲折もあったが大筋として順調に進捗し、建築設計(現東高校校舎)完成最後の詰めの建設委員会を翌年度の頭に設定し、3月30日まで万般の詰めの作業に没頭し、翌日付けで定年退職した。

これらを巡る苦労は、振り返ってみると、戦略と戦術、ふところの深さを求められる私の管理者修行に最後の機会を与えられたものと感謝もしている。

また在職期間中、同窓会とは一線を画した孤立的な対応を余儀なくされることも多く、執行部の皆様の期待に反することしばしばであったことも、改めてお詫びしておかなければならない。

出典1:『語りて光栄の歴史あり 誠之館同窓会報特別号』、21頁、福山誠之館同窓会編刊、平成13年10月

出典2:『五十年史 広島県立福山工業高等学校』、361頁、創立五十周年記念誌編集委員会編、創立五十周年記念事業実行委員会刊、昭和57年11月7日

出典3:『巴峡百年(下巻)広島県立三次高等学校』、28頁、創立百周年記念誌編集委員会編、同窓会「巴峡百年」刊行会刊、2002年3月31日

2005年2月1日更新:本文●2005年4月6日更新:本文●2006年3月28日更新:タイトル・写真・本文●2008年1月30日更新:経歴●2008年3月6日更新:経歴・出典●2009年11月24日更新:経歴●2010年4月28日更新:経歴●